

日本沈没の予兆

国税庁のホームページには

《2019年10月1日から、消費税及び地方消費税の税率が8%から10%に引き上げられると同時に、消費税の軽減税率制度が実施されます。》

という言葉が書かれている。

まるで消費税増税が決定したかのような書きぶりだが、まだ決まったわけではない。

『消費税増税』は民主党の野田佳彦元総理が決めた

忘れてはいないだろうか？消費税増税を強く推したのは、民主党が与党時代の野田佳彦元総理である。(※)平成16年、9月、民主党財務大臣。

『消費税増税といえば民主党の野田総理』『民主党の野田総理は消費税増税』(こ



野田佳彦 元総理大臣

れ、試験に出ますから忘れないようにしっかり付箋をはっておきましょう。)

自民党から民主党の「政権交代」を「増税チャンス」

ととらえた財務省は、共産党中国のように**民主党政権にすり寄り**、中国の「熱烈歓迎」をそのものに、情熱的なアプローチで**初めて政権にありつき混乱する民主党の議員たちを個別攻略**していった。

役所の中の本物の役所と称賛される**財務省**。自民党時代から「古手のママ」「ママ」「チーママ」と人材に事欠かない財務省。議員会館の各センセイのお部屋を訪問して甘い言葉でアイサツをして回るのだから舞い上がってしまう民主党議員が続出するのは致し方ない。

時代は移って 自民党 安倍晋三総理大臣

「デフレよさらば!」「インフレよ久しぶり!!」を望んだ安倍晋三総理大臣は「日本銀行」の人事改革に手を突っ込み2%のインフレ率を目標にインフレ誘導路線を採ることに決めました。

そこで選んだのがアジア開発銀行にいた黒田東彦(クロトン)総裁。

黒田東彦(クロトン)総裁を日本銀行総裁につけるや「白から黒への改革」の劇的変化。

黒田バズーカが火を噴けば円高が円安に。円安になると株価がぐんぐん上昇。輸出企業は絶好調。あれだけ増えていた失業・半失業者がどんどん減って人手不足の現状である。

この絶好調の景気回復に水をかけたのが、財務省の消費税増税5%→8%だ。せっかく「上を向いて歩こう」消費税を気にしないようにと、爪に火を点すような節約をしていた庶民に「**財務省の消費税増税5%→8%**」は絶望感を与え、その効果はてき面。

証拠捏造する

『財務省』は詐欺師か？

《許せないのは『財務省』が御用学者を総動員した公聴会をコントロールして自民党安倍晋三総理の内閣を騙しにかかったことです。》

言い換えれば「安倍晋三内閣総理大臣を引き摺り下ろそう」とする「財務省」と『民主党』の狙いのおり『回復基調にあった日本の景気』は悪化したのです。



黒田東彦 日本銀行総裁

その影響で先行きに不安を感じた日本の各大手上場会社はいたずらに内部留保を増やし、給料・ボーナスを出し渋る結果とな

りました。

それでも安倍晋三総理は黒田東彦日銀総裁に【異次元の金融緩和】を促し、バズーカ速射砲の連射に換えます。一段と激しくなった黒田バズーカですが、なぜか景気回復が今一つです。調べてみると、来年2019年10月1日に消費税増税がスケジュールに上っているからです。

金融緩和でアクセルを吹かしているのに、もう片方の足で思いっきり「消費税増税」というブレーキを踏むことになっているのです。

ブレーキがかかることがわかっているのに、安心して消費行動をするとは思えません。日本人の感覚は基軸通貨ドルを持つアメリカ人とは違います。先に不安があるときは節約して貯金をして来るべき災難に備える国民性だからです。

それが現実に表れているのが先述した『先行きに不安を感じた日本の各大手上場会社はいたずらに内部留保を増やし、給料・ボーナスを出し渋る結果となりました。』という部分です。

だから、ワイズがなんども言うように消費税増税はぜったいにしてはならないのです。

消費税増税をすれば、アベノミクスは「アホノミクス」と言われ、景気は未曾有の不況に突入し日本円は世界の信頼を失い、ハイパーインフレとなって日本沈没です。